

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

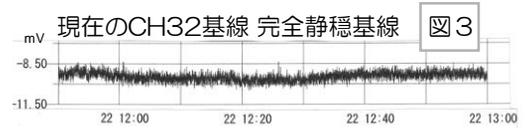
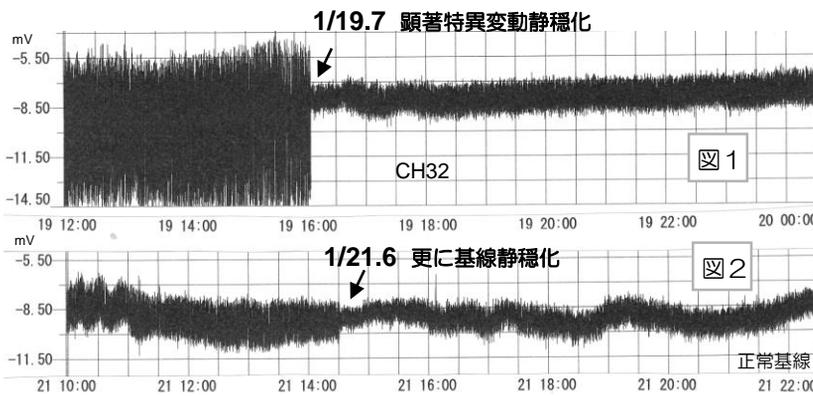
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁〜35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

CH32特異変動静穏化 16年7ヶ月継続した変動全て終息

1/19.7 静穏化の場合=2/3±2 1/21.6 静穏化の場合=2/5±2 対応地震発生の可能性

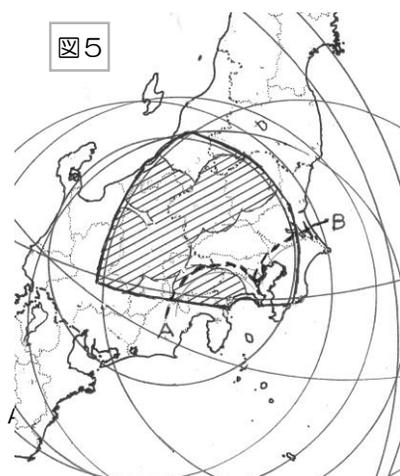
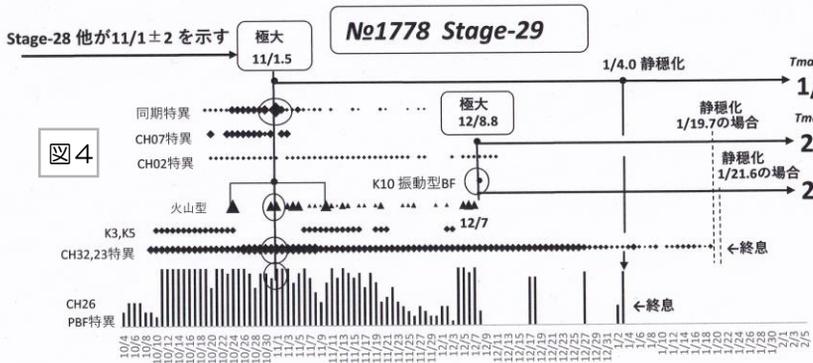


◆前続報で、1/12までに続報が更新されない場合は、最後の変動であるCH32の特異変動が1/9までに静穏化しなかったこととご理解下さいと記しました。

◆実際、CH32特異は1/19まで継続し、図1のとおり、1/19の16時頃に顕著な特異変動が静穏化しました。顕著な特異変動が静穏化してから既に72時間が経過していますが、顕著な特異変動の再出現はありません。顕著な特異変動は静穏化したと認識されます。

◆1/19.7に顕著な特異変動が静穏化したCH32基線は、極めて微弱な変動があり、若干基線が太くなっていました。地殻大型地震では余震の関係か、変動が完全に静穏化しない過去例があるため、その関係を考えておりましたが、1/21の14時30分に更に基線が静穏化し、正常基線となりました。本日10時頃から1時迄のCH32基線のとおり、完全静穏基線です。

◆問題は2024.12/8.8極大に対する変動静穏化時期です。顕著な特異が静穏化した1/19.7とした場合は2/3±2 発生が計算されますが、通常基線となった1/21.6を静穏化した場合は2/5±2 発生が計算されます。どちらの可能性が高いかは判断困難です。大枠としては2/4±3発生の可能性。



●推定領域：図5の太線領域内=大枠推定領域
図5斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm
が合計で約110~150km程度となる様な複数地震活動の可能性
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山
の噴火の可能性は考えにくい（今後噴火変動が観測された場合は続報予定）

●推定時期：2024.12/8.8極大に対し1/19.7静穏化の場合=2月3日±2 発生の可能性
2024.12/8.8極大に対し1/21.6静穏化の場合=2月5日±2 発生の可能性
大枠：2025年2月4日±3

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）